



つなげたい想いを、かたちに。



イオンモール株式会社

〒261-8539
千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1 イオンタワービル7階
TEL:043-212-6348 FAX:043-212-6779
<http://www.aeonmall.com>

イオンモール株式会社は、
環境マネジメントシステム
の国際規格ISO14001の
認証取得企業です。



イオンモール株式会社

つなぐために、変わる。

イオングループにおけるディベロッパー事業の機能を統合し、イオンリテール株式会社のモール型・大型ショッピングセンター型の商業施設69モールの管理・運営業務を当社が受託しました。この結果、イオンモールは国内外で140※を超えるモールを運営することになりました。

私たちは、地域社会、行政、NPO、テナント企業、協力企業、地権者、投資家など、まちづくりにかかわるすべてのパートナーとともに、輝きのあるまち、すなわち「驚き、感動、喜び」のある生活拠点を創造し、地域で生活する人々の、より彩りあるくらしの実現に向けて努力します。

人と人、人とまち、そして今日と未来をつなぐために、イオンモールは常に変わり続けます。

※2014年8月末現在

トップメッセージ

イオンモール株式会社 代表取締役社長

岡崎 双一



イオンモールはアジアNo.1商業ディベロッパーとなるべく、2014年度から3か年において国内・中国・アセアンで40モール超の出店を計画しております。近年の中国・アセアンでは、中間所得者層が増大して新たな豊かさを求める消費意欲旺盛な人々が集まる都市化が進んでいます。その中で当社が国内で培った大規模複合型モールの開発・運営のノウハウを活かし、世界の皆さまに喜んでいただけるモールづくりを進めていきたいと考えています。

国内においては、地域の観光資源を活かした観光型モールやリゾート型モール、都市の暮らしに合った都市型モールなど、新しいコンセプトを持つモールの創造を進めています。地域に合ったモールの開発こそ、CSRの実践と考えております。

これまでも、地域にお住まいの皆さまのさまざまなニーズにお応えするため、銀行、郵便局、医療機関、自治体の行政サービスコーナーなど、公共性の高いサービスを積極的に取り入れたモールを作ってまいりました。今後もそのノウハウを活かし、常に地域の皆さまから支持し続けるモールづくりを行ってまいります。

イオンモールのような大規模商業施設は、一企業だけのものではありません。地域にお住まいの皆さまの生活に密着した公共施設としても機能すると考えております。地域の伝統行事や文化活動などが開催される際には、商業施設の枠を超えたサポートを提供するほか、国内のモールでは、防災活動への協力などに関する協定書を地方行政と締結し、災害対策や防災の拠点として機能する体制を整えています。従業員の皆さまには、万一の際にイオンモールが頼れる場となることを誇りに思うとともに、それぞれがよりCSRに対する理解を深めてほしいと考えております。

モールは、その地域の生活を支える一部です。だからこそ、その地域にお住まいの皆さまに愛される存在であることが一番大切であると考えております。そのためにもCSRの取り組みは重要であり、CSRを抜きにしてモールは存在できないといっても過言ではないでしょう。

このCSRレポート『未来への報告書』で、私たちが携わるまちづくりについてご報告いたします。引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



イオンの基本理念

AEON

お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。

平 和

お客さま

人 間

地 域

イオン(AEON)とは、ラテン語で「永遠」をあらわします。
私たちの理念の中心は「**お客さま**」：イオンは、お客さまへの貢献を永遠の使命とし、最もお客さま志向に徹する企業集団です。

「平 和」：イオンは、事業の繁栄を通じて、平和を追求し続ける企業集団です。

「人 間」：イオンは、人間を尊重し、人間的なつながりを重視する企業集団です。

「地 域」：イオンは、地域の暮らしに根ざし、地域社会に貢献し続ける企業集団です。

イオンは基本理念のもと、**絶えず革新し続ける企業集団**として、**「お客さま第一」**を実践してまいります。

イオン宣言
イオンは、日々のいのちとくらしを、開かれたことと活力ある行動で、「夢のある未来」(AEON)に変えていきます。

**イオンモールは、
「イオン」の一員です**

イオンモールの理念

イオンモール株式会社は、ショッピングモール専門ディベロッパーとして、大規模複合型モールの開発と管理運営を通じて、地域社会の発展と文化の向上に寄与しています。

基本理念
お客さま第一
経営理念

イオンモールは、「輝きのあるまちづくり」をめざします。

私たちは、パートナーとともに、輝きのあるまちを創造し、地域で生活する人々の、より彩りあるくらしの実現に貢献し続けます。

「輝きのあるまち」とは
私たちが創る「驚き、感動、喜び」のある生活拠点によって魅力あふれる新しい生活があるまちのことを指します。

「パートナー」とは
地域社会、行政、NPO、テナント企業、協力企業、地権者、投資家など、まちづくりにかかわるすべての人を指します。

コーポレート・メッセージ


ひとも、まちも、きらきら。

会社概要	目 次
社 名 イオンモール株式会社	トップメッセージ 3
設 立 1911年(明治44年)11月	特集 地域の「困った!」を「よかった!」に。 6
資 本 金 422億4百万円(2014年8月末現在)	イオンモール CSRの「5つの柱」 12
事 業 内 容 大規模地域開発及び ショッピングモール開発と運営 不動産売買・賃貸・仲介 [国土交通大臣(2)第7682号]	地域とともに 継続的な地域社会への貢献 14
従 業 員 数 1,920名(2014年8月末現在)	モールの安全管理 不断の安全追求から生まれる安心の獲得 18
【編集方針】 この報告書は、イオンモール株式会社が果たすべき社会的責任の目標と実績、私たちが携わるまちづくりについてのご報告と今後の課題について記述しています。	社員の職場環境 すべての人が生き活きと働く職場の実現 20
【報告書の対象範囲】	パートナーとの協力 健全で良好なパートナーシップの推進 22
対 象 組 織 イオンモール株式会社 イオンモール株式会社に属するグループ企業とその管理する店舗・施設が原則となりますが、環境指標SR会計報告については、イオンリテール株式会社から管理受託を受けている69モール、mozo wondercity、大津ショッピングプラザ、ショッピングセンターソヨカふじみ野、神戸ハーバーランドumieを除きます。	環境への配慮 地域から地球へ、環境保全の推進 24
対 象 期 間 2013年3月1日から2014年2月28日 対象期間外の情報に関してはそのつど表記しています。 また社員の役職は2014年8月末現在のものです。	コーポレート・ガバナンスに対する取り組み 30
発 行 2014年11月	2013年度 SR会計報告 31
	第三者意見 32
	イオンモール データ集 33

地域の「困った!」を「よかった!」に。

イオンモールの社会課題への取り組み

地域の皆さまの笑顔あふれるモールづくり、まちづくりのために、常に地域の課題に対し「イオンモールにできること」を考えています。

自治体と協力して全国に“まち”をアピール ～イオンモール天童の取り組み～

地域の現状と課題

商店街の活性化は 市にとっても急務でした。

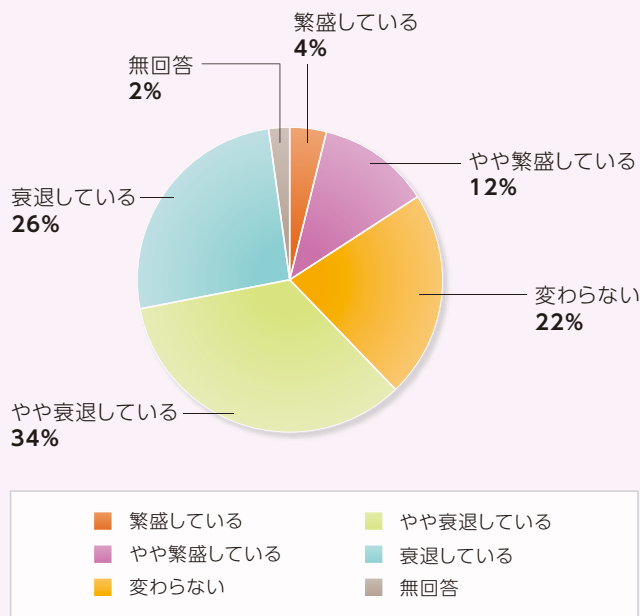
地方の商店街共通の課題として、空き店舗の増加が挙げられます。天童市も例外ではなく、市にある5つの商店街全体でおよそ12%の空き店舗がみられます。そのようなことから、2011年度に有識者や商店主、消費者の皆さんを集めて「天童まちづくり・市街地活性化懇談会」を開催しました。そこでさまざまな意見を頂戴したことを踏まえ、2012年度には「天童中心市街地活性化基本方針」を策定しました。それに基づき、活性化への取り組みを進めている最中です。

そのなかで、生活交流拠点として新たな市街地を形成しようとしている芳賀地区にイオンモール天童が2014年3月にオープンすることになりました。通常、大型ショッピングモールの開店は地元企業にとっては脅威にもなり得ます。しかし、イオンモール天童は年間800万人の来客を見込んでいるとのこと。そのお客さまのうちたった5%でも市内を回っていただき、地元商店を訪れていただければ非常に大きな効果となります。そのため、オープン前より期待を寄せていました。

オープンから2ヵ月、地元の商店から「これまでにないお客さまに来ていただいている」という声を聞きます。今後は、われわれ行政と地元企業が新たなお客さまを取り込むための努力をしなければなりません。イオンモール天童とは、これからお互いの要望を率直にぶつけ合い、ともに成長していくことができればと考えています。

■現在の景況について

天童市商店街および市街地活性化に関するアンケート集計結果
(2012年4月実施)



天童市長
山本 信治さま



天童が世界に誇るデザイン家具ブランド・天童木工による曲げ木のモニュメント(左端)、将棋の駒を模した外壁の飾り(上)など、天童らしさを前面に押し出したイオンモール天童。

イオンモールの取り組み

まち全体を盛り上げたい。 その想いに力を貸していただきました。

2013年の春、天童市に赴任してまず驚いたのが、観光資源が豊富にあることでした。まずは市外、そして県外にこのまちのよさを伝えたい。たくさんの方が天童を訪れば、イオンモール天童の活性化にもつながるだろうと考えました。

そこで行ったのが、2014年3月のオープンに先駆け、1月にイオンモール幕張新都心にて開催した「天童フェア」です。市長をはじめ各種団体さまの協力を得て花笠音頭や伝統工芸など、2日間をかけて天童の魅力を発信しました。これが大好評で、イオンモール社内でも大きな反響を呼びました。

また、イオンモール天童では130の専門店のうち、山形県内の企業さまに11店舗出店いただいています。一方で東北初出店11店舗、山形県初出店64店舗と、地元企業の皆さまにも出店いただきつつ、周辺地域の方々に喜んで訪れていただくためのモールづくりもしております。実際、オープン2ヵ月で153万人と、予想を上回るペースでお客さまにご来店いただいています。

このように「イオンモールだけでなく、まちごと盛り上げたい」という思いを市長をはじめ地域の皆さまにご理解いただき、天童市ふるさと大使、さらにはやまがた特命観光・つや姫大使にまで任命いただきました。今後は天童の特色を活かした建物や内装だけでなく、天童市や山形県の情報発信地として真の「観光モール」をめざし、成長を続けていきたいと考えています。

地元企業の専門店出店



イオンモールでは地元企業を積極的に誘致している。イオンモール天童においても老舗の和菓子店など、11店舗が出店。今後新設するアウトモールの店舗にはより多くの地元企業誘致を図る。

観光モールへの取り組み



花笠音頭のディスプレイは「東北六魂祭」にちなんだもの。また、店内に配置されたソファはすべて天童木工製。遠方のお客さまは訪れる楽しみを、地元のお客さまは誇りを感じることもできるモールづくりを行っている。



イオンモール天童
ゼネラルマネージャー
村上 浩一

地域の特性を活かし、環境に配慮し、生活を豊かにする新しいモールづくり

全国に135のイオンモール(2014年8月末現在)を開発、展開する当社は、これまでの豊富な経験と実績、マーケティングノウハウを基に、その地域の特性やロケーション、商圈に合わせたモールづくりを積極的に進めています。

2015年春にオープンする「イオンモール沖縄ライカム」(沖縄県)は、観光・リゾートがコンセプトです。メイド・イン・ジャパンの文化を発信し、日本・沖縄発の本格的な食のエンターテインメントを提供することでアジアを代表するNo.1リゾートモールをめざします。

2010年3月にオープンした「イオンモール大和郡山」(奈良県)では、伝統の藍染の藍色を各フロアの案内サインに採用するなどして、大和郡山らしさをアピールするモールになっています。また、2010年11月にリニューアルした「イオンモール新居浜」(愛媛県)は、瀬戸内の原風景をモチーフにしたランドスケープを設け、外壁に新居浜太鼓祭りをモチーフに太鼓台のデザインを彩ることで活気ある外観を演出しています。こうした地域性を明確に打ち出すモールづくりを推進する背景には、マーケットの多様化、画一的なモールでは受け入れられないなど、その地域、お客さまのニーズの変化があります。

イオンモール独自の開発を進める一方で、自治体などと協力してつくる、街づくりを視野に入れた、地域社会一体型モールも増えています。こうしたモールには、最近では2014年12月にオープンする「イオンモール岡山」(岡山県)や、2016年春オープン予定の「イオンモール今治新都市」(愛媛県)などがあります。イオンモールの集客機能を活かして、既存の商店街とコラボし、共存を図ることで、地域の活性化に努めています。

イオンモールでは、開発に当たり環境に配慮することは、モールづくりの先駆者として「当たり前のこと」と捉えています。そうした発想を具現化したのが、次世代型エコストア「スマートイオン」です。エネルギーの融通(スマートエネルギー)や防災・地域インフラの構築、生物多様性・景観への配慮など、地域との連携・協力が不可欠な5つの基準すべてを満たし、それぞれの地域のニーズや特性を尊重しながら、持続可能な店舗づくりを中心としたコミュニティ・まちづくりを実現します。2013年5月オープンの「イオンモール大阪ドームシティ」(大阪府)が「防災対応型スマートイオン」の国内1号店となり、2013年3月にリニューアルオープンした「イオンモール八幡東」(福岡県)、2013年12月オープンの「イオンモール幕張新都心」(千葉県)など、今後もスマートイオンを導入したモールを積極的に増やしていく予定です。また、2013年11月オープンの「イオンモール東員」(三重県)では、雨水を循環利用する「雨の庭」といった新しい試みにも取り組んでいます。

開発本部はモールのコンセプトやデザイン、それに見合った土地や物件を探し、調査し、開発に向けてその地域の人々とコミュニケーションを重ねて、まちづくりを推進しています。環境課題だけでなく、地域の特徴や課題をつかみ、そこに住む皆さまのニーズに合わせたモールの開発には、お客さまと身近に接し、地域の声にきちんと耳を傾けるということが大切です。今後も環境に配慮したモールを開発することで、その地域の方々を中心に、お客さまの生活が豊かになるように取り組んでいきたいと思っています。

イオンモール株式会社 専務取締役 開発本部長 岩本 馨



「イオンモール沖縄ライカム」(沖縄県)のコンセプトは「OKINAWA リゾートモール」。沖縄独特の文化や豊かな自然を感じることができ、沖縄に住む人、国内外から訪れる観光客が同じ空間で同じ「トキ」を過ごせるアジアを代表する癒しと楽しさに溢れたリゾートモールとなることをめざしています。沖縄「うちなー」スタイル＝琉球文化×アメリカ文化発信、そして日本発「ジャパン」スタイル＝メイドインジャパン×グローバルジャパン発信の中心となるためのさまざまな施設を設けています。



中国四国地方のクロスポイントである岡山市の中心地、岡山駅前に「ひと」、「文化」、「情報」が集まり、交わり、創造、発信される「未来のまち」をつくっていくことを目的としたのが「イオンモール岡山」(岡山県)です。『おかやま未来スタイル創造特区』をコンセプトに、大都市の時差を縮め、岡山のきらめく未来を予感させる「都市体験」と岡山の歴史を受け継ぎ、新たに紡いでいく「新岡山スタイル」、つまり今までの岡山になかった多彩なスタイルやチャンスに出逢える、新しいライフスタイル、新しい文化が生まれる場所の創造をめざしています。



地域とともに「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭

イオングループでは、地域のお客さまとともに取り組む環境保全・社会貢献活動の一環として、施設の敷地内に、その地域に自生する「ふるさとの木」の苗木を、地域の皆さまとともに植えて大切に育てていく「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭を開催しています。

イオンモールでも、国内外の各モールで植樹祭を開催し、地域の方々と植樹を行っています。樹種の選定は、横浜国立大学宮脇昭名誉教授のご指導の下、地域の原生林を調査し、生態系に適った樹種を選定しています。

なお、イオン環境財団と「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭の累計植樹本数は、昨年、1,000万本に到達しました。

イオンモール和歌山

植樹本数 **15,000本**

イオンモール和歌山では、2014年3月2日(日)に、地域にお住まいの約1,800名の方々と「イオンふるさとの森づくり」植樹祭を開催し、「スダジイ」「タブノキ」「ヤマモモ」などの地域の樹木を中心とした苗木約15,000本の植樹を行いました。



イオンモール東員

植樹本数 **15,000本**

イオンモール東員では、2013年10月20日(日)に、地域にお住まいの約1,500名の方々と「イオンふるさとの森づくり」植樹祭を開催し、シラカシやヤマザクラなどの地域の樹木を中心とした苗木を約40種類、約15,000本の植樹を行いました。



イオンモール名古屋茶屋

植樹本数 **20,000本**

イオンモール名古屋茶屋では、2014年6月8日(日)に、地域にお住まいの約3,000名の方々と「イオンふるさとの森づくり」植樹祭を開催し、「シラカシ」「スダジイ」「カンツバキ」「クチナシ」などの地域の樹木を中心とした苗木を50種類、約20,000本の植樹を行ないました。



イオンモール天童

植樹本数 **15,000本**

イオンモール天童では、2013年11月10日(日)に、地域にお住まいの約1,500名の方々と「イオンふるさとの森づくり」植樹祭を開催し、「シラカシ」「カンツバキ」「クチナシ」などの地域の樹木を中心とした苗木約15,000本の植樹を行ないました。



それぞれの地域で献血活動を下支え ～全国各地のイオンモールでの取り組み～

地域の現状と課題

イオンモールの献血活動が、20～30代の参加者を増やすきっかけに

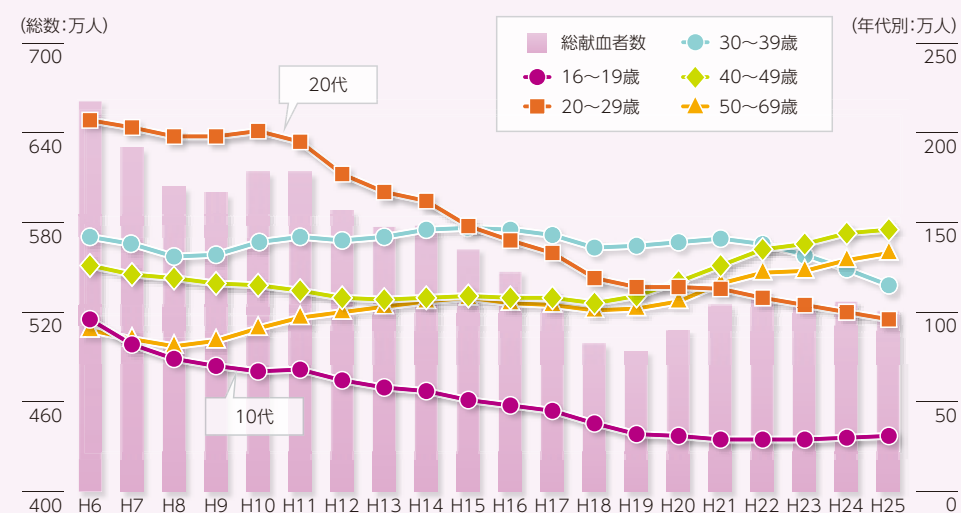
私たち日本赤十字社の調べで、10代のうちに一度でも献血をしていると、その後も継続的に協力するようになるというアンケート結果があります。日本赤十字社では、学校と協力し、小中学生に献血の重要性を呼びかける取り組みをしています。また、大学生や専門学校生によるボランティアが同年代の若者に献血を呼びかける活動も盛んです。病気やけがで血液を必要とする患者さんのため、多くの方にご協力いただき、感謝しております。

イオンモールでも、日本赤十字社が行っている献血活動に、積極的にご協力いただいております。多くの実績を挙げています。

近年、20～30代を中心とする若年層の献血が減少しています。現在は多くの皆さまのご協力により、必要量の安全な血液を確保できていますが、今後の安定供給のためには、20～30代の献血への参加を増やしていく必要があります。

イオンモールは日本赤十字社の活動にご理解をいただき、駐車場など店の貴重なスペースに、大きな献血車を置かせていただいています。イオンモールには20～30代はもちろん、各年代のお客さまが訪れます。イオンモールが会場となり、献血を呼びかけることは、20～30代の方が献血に参加するよいきっかけになっていると考えています。この年代の方々が献血に参加しにくいのは、仕事で忙しく、平日の仕事の合間だと献血のための時間がとりにくいことが原因のひとつと考えられます。しかし休日に、買い物物の合間ならどうでしょうか。「買い物物のついでに献血を」と考えるお客さまもいるでしょう。あるいは、「献血のためにイオンモールに行き、ついでに買い物をする」という方もいます。双方の集客能力をあわせることで、イオンモールで献血と買い物、という意識が定着し、20～30代の献血への参加者が増えていくよう、願っております。

■年代別献血者数の推移（資料協力：日本赤十字社）



日本赤十字社
血液事業本部 献血推進課長
瀧川 正弘さま



建物入口近くに設置した献血ブース

イオンモールの取り組み

イオンモールでは、2013年の1年間で、 150,260人のお客さまに献血していただいています。

イオンモールでは、各地域のモールが、日本赤十字社と協力し、積極的に献血活動に取り組んでいます。イオンモール秋田やイオンレイクタウンmori、イオンモール日吉津、イオンモール倉敷など常設の献血ルームやブースのあるモール、駐車場などのスペースに献血車を置いての献血活動、モール内のホールなど空きスペースでの献血活動で、年間で150,260人のお客さまに献血のご協力をいただきました。

各モールでは、モール内のポスターなどでの事前告知をはじめ、ホームページで、献血活動の予定日をお知らせするなどの広報活動を行い、お買い物の合間や、待ち合わせの間にご協力いただけるように呼びかけを行っています。また、献血活動に合わせたイベント開催や献血キャラクターとの広報活動、モールによってはご協力いただいたお客さまへの特典のサービスなども行っています。



子どもの頃から献血への理解を促進。模擬体験を通して、「キッズ献血」



モールのエントランスに設置した献血ブース



献血キャラクター「けんけつちゃん」と広報活動



エレベーターホールに設けた献血ブース



車寄せに献血車を設置



駐車場を献血会場に

ISO26000に対応する「5つの柱」をベースに、社会的責任を果たしてまいります。

私たちの仕事は、ショッピングモールという「まち」をつくり、その価値を高め続けていくこと。そのためには、地域社会との確かな信頼関係づくり、環境への配慮、安全性のさらなる向上などに対する継続的な取り組みが必要です。

従って、当社では本来の企業活動とCSRが密接にかかわっており、あらゆる部署の従業員が日常の業務を通して社会への責任を果たすことが求められています。

このような考えから、当社では社会的責任に関する初めての国際規格であるISO26000をふまえて、5つの柱をベースにCSR活動を推し進めています。

ISO26000が定める7つの中核主題

1. 組織統治
2. 人権
3. 労働慣行
4. 環境
5. 公正な事業慣行
6. 消費者課題
7. コミュニティ参画および開発

CSR推進体制図



イオンモールCSR「5つの柱」の構成



「継続的な地域社会への貢献」を果たすには、まず何よりも「不断の安全追求から生まれる安心の獲得」によってお客さまに安心してイオンモールにご来店いただくことが重要です。そのためには「すべての人が生き活きと働く職場の実現」により従業員を尊重し、「健全で良好なパートナーシップの推進」によりパートナーとの公正な関係を持続させなくてはなりません。また、事業活動を行うにあたり「地域から地球へ、環境保全の推進」をすることによって、イオンモールは地域の皆さまとともに持続可能な成長を続けていきます。

継続的な地域社会への貢献

私たちは人々が求める真の貢献を実現するために、その地域に密着し、交流を深めることで問題を共有し、その解決に努めます。



地域の皆さまとの共生

地域とともに成長するモール

イオンモールはさまざまな形で地域経済の活性化に貢献しています。新しいモールのオープンは地域に数千人単位の安定した雇用を創出し、税収や人口の増加にもつながります。テナントリーシング(専門店の誘致)についても、全体の約3分の1が地域からの出店になるよう配慮しています。また、建設業者を通して多くの仕事が地元企業に発注されるなど、広範囲に間接的な効果を及ぼします。

地域・社会貢献の拠点として

グループの社会貢献活動の一環として各モールが行う募金活動には、例年多くのお客さまからご協力をいただいています。なかでも、学校建設などを通してアセアン各国の子どもたちを支援する活動を推進しています。

また、毎月11日の「幸せの黄色いレシートキャンペーン」*を通じて、お買い上げ金額の1%を地域のボランティア団体などに還元する取り組みも、モールの専門店とも協力して積極的に行っています。

2013年度 募金活動結果

(単位:円)			
障がい者ものづくり 応援募金	2013年 2月23日～ 2013年 3月11日	3,045,854	
東日本大震災復興支援募金	2013年 4月20日～ 2013年 5月12日	1,823,163	
イオン・ユニセフ セーフウォーター キャンペーン募金	2013年 4月 6日～ 2013年 6月 9日	4,666,125	
アフリカ応援キャンペーン 「レッドカップfor アフリカ」 募金 (神奈川県内モールのみ実施)	2013年 4月 1日～ 2013年 5月31日	41,785	
24時間テレビ チャリティー募金	2013年 6月15日～ 2013年 9月 1日	56,279,447	
ミャンマー学校建設 支援募金	2013年 9月13日～ 2013年11月17日	6,178,745	
フィリピン台風被害 緊急支援募金	2013年11月13日～ 2013年11月24日	9,238,072	
クリスマスチャリティー募金	2013年11月16日・ 17日・25日～12月 25日	6,389,483	
合計		87,662,674	

※「幸せの黄色いレシートキャンペーン」とは、お客さまがレジ精算時に受け取ったレシートを、地域のボランティア団体名が書かれた店内備え付けのBOXへ投函していただき、レシートのお買い上げ金額合計の1%をそれぞれの団体に還元する取り組み

地域の美しい環境を未来へ

1991年から行っている「グリーン&グリーン」活動の一貫として、毎月イオン・デーには、専門店従業員の皆さまとともに、モール周辺の歩道や公園、植樹帯などの清掃活動を行っています。イオンモール幕張新都心では、新店がオープンする前から、地元の方々と協働して活動を行いました。

公的サービスの提供

イオンモールは地域の皆さまに高い利便性を提供するために、銀行、郵便局、医療機関、自治体の行政サービスコーナーなど、公共性の高いサービスも導入しています。また、モール内に設けられた多目的ホール(イオンホール)を、成人式や確定申告の会場、選挙の投票所、運転免許更新の講習会などにもご活用いただいています。

宮城県東松島市「おのくん」制作応援プロジェクト

2011年に起こった東日本大震災。その被災地は3年経った今でも復興に向けて地道な努力を行っています。イオングループでは「心をつなぐプロジェクト」として、復興植樹参加や交流の場としてイオンホールを提供するなどお手伝いしてきました。2014年度からはイオンモール心をつなぐプロジェクト活動として、宮城県東松島市の「おのくん」制作の応援を開始しました。

おのくんとは？

おのくんとは、東松島市小野駅前応急仮設住宅に暮らしている皆さんが支援でいただいた靴下でソックモンキーを作り始めたのがきっかけでできた、おのくんというキャラクターソックモンキーです。仮設住宅のお母さんたちが「みんなが明るく元気で暮らせよう」という願いを込めて、一針ずつ手縫いで制作されています。1体1,000円で販売されていますが、購入者には里親さんになっていただくという考え方で、またおのくんをつれて東松島に帰ってきてほしいという想いと人との絆が大切にされて、おのくんの輪は次第に広がっています。

おのくん制作支援

東松島市という被災地から、元気を届けたいというお母さんたちの気持ちをイオンモールでは応援しています。全国のイオンモール(一部除く)に靴下や綿(おのくんのえさ)の回収ボックスを設置し、お客さまにもご協力を呼びかけしています。お客さま、従業員の協力により、2014年4月20日に小野市民センターで開催された初めての「めんどくしえ祭(おのくんの誕生日)」にて3,342足の靴下と416個の綿を贈呈しました。今後もおのくん制作応援活動を多方面から継続していきます。



おのくんの材料回収の呼びかけ



おのくん制作のための回収ボックス



「めんどくしえ祭」での贈呈の様子

各地での地域貢献事例

イオンモールは、それぞれの地域の祭事などの伝統行事や市民の文化活動を尊重し、商業施設の枠を超えてサポートを提供します。また、海外でも一般財団法人イオンワンパーセントクラブ、公益財団法人イオン環境財団を中心としてさまざまな地域貢献に取り組んでいます。

イオンモール秋田

1

秋田竿燈まつり、
秋田おばこ踊りへの参加

毎年8月に開催される「秋田竿燈まつり」「秋田おばこ踊りフェスティバル」に参加しています。竿燈では、地域の竿燈会のご協力の元、イオングループとして3本の竿燈をだし、華麗な演技を披露しました。おばこ踊りも一般参加の方々とともに参加し、地域との連携や信頼関係の醸成に努めています。



イオンモール高岡

2

北陸新幹線開業
PRコーナーがオープン

2015年春の北陸新幹線開業を前に、北陸新幹線の最新情報から観光情報までを発信する北陸新幹線開業PRコーナーを13年10月に設置しました。当日はご当地キャラクターの利長くんが高岡昆布スイーツの販売を行うオープンイベント、翌月にはご当地アイドル・ビエノロッシライブ&ご当地ゆるキャラ大行進を行いました。このほか、富山大学高岡キャンパスと協力し、学園祭のための工作イベント(描いた絵をビニール傘にコーティング)「わくワーク、かさアート」や、14年4月には東二塚獅子舞保存会による「春祭り 東二塚獅子舞の演舞」をモール内で開催しました。



イオンモール高崎

3

イオンモール高崎
だるま市

「高崎だるま」は、全国一のだるま生産量を誇り、群馬県で最初の地域ブランドに認定されました。この高崎だるまを、威勢のよいかけ声とともに販売する「イオンモール高崎だるま市」の8回目を1月に行いました。高崎市のゆるキャラ・たか丸くんの出演で売り場は大いに盛り上がり、開運だるまくじや古だるまお預かりコーナーも好評を博しました。イオンモール高崎限定の名入れの即時対応は、今年も多くのお客さまにご依頼をいただきました。



イオンモール春日部

4

大風あげ祭り

毎年5月に江戸川の河川敷で開催される「大風あげ祭り」。江戸時代後期から続いている祭りで、大風文化保存会の会員が和紙と竹で3ヵ月もかけて作った大風を百数十人であげ、約10万人の見物客がその勇壮さを楽しみます。2013年、イオンモール春日部は大風文化保存会の会員にオリジナル大風を製作していただき、初参加しました。この大風は現在、モール内の「風の広場」に展示しています。



イオンモール成田

5

成田祇園祭

300年の歴史を持つ「成田祇園祭」。毎年、約45万人の見物客が訪れる成田の一大イベントで、威勢のよいかけ声に合わせて、大きな山車が市内を練り歩きます。イオンモール成田では、立ち寄ってくださったお客さまに「振る舞い」を行いました。大勢のお客さまが足を止め、祭りを大いに盛り上げました。



イオンモール東員

6

東員町こども歌舞伎

「東員町こども歌舞伎公演」は、七世松本幸四郎丈を顕彰するとともに、伝統文化の振興と子どもたちの豊かな感性を育むことを目的として、毎年開催されています。東員町をはじめとする近隣の園児・児童・生徒・学生(男女問わず)が、歌舞伎指導者より初歩から演技の指導を受け、稽古を重ねた成果を披露するものです。6月に行われた第19回公演では、『仮名手本忠臣蔵』『三段目』と、『義経千本桜』『すし屋』を上演しました。イオンモール東員では、モール内の「カブキコート」で「寿式三番叟」を公演するなど、全国に歌舞伎のまち「とういん」を発信しています。



イオンモール伊丹

7

いたみ花火大会

イオンモール伊丹沿いを流れる猪名川の河川敷で開催される「いたみ花火大会」は、毎年恒例の夏の風物詩になっています。大会当日は、大勢がお客さま駐車場から花火を楽しみ、イオンモール伊丹の来店者数は年間最大になります(2012年は10万人以上。13年は雨天中止)。



イオンモール福津

8

ママと赤ちゃんのための
プログラム

イオンモール福津では、初めてのママと赤ちゃん(4~8ヵ月の第一子)のためのプログラム「あんだんて」を実施。ベビーマッサージとあやした、交流会を組み合わせた全6回のゆったりとしたプログラムで、離乳食やお風呂の入れ方、寝かしつけ方など、ママたちが知りたいことを楽しく学び、交流できるようにサポートしました。このほか、「子育て講座」も行っています。「1歳児とママのためのプログラム「こもど」」では、子どもの食事やしつけ、かかわり方などの情報を気楽に話し、学びました。生後1ヵ月~未就学児の保護者が対象の「子どもの離乳食や食事と子育て」では、赤ちゃんや子どもがおいしく食べてくれる工夫やコツと一緒に学び合いました。



ベトナム

9

第1回ベトナム
ハノイ植樹

2014年3月22日、公益財団法人イオン環境財団は、ベトナム社会主義共和国(以下ベトナム)ハノイ近郊のパ・ヴィ国立公園において「ベトナム ハノイ植樹」を開催しました。日本とベトナムのボランティア560人の方々と地域に自生する木々2,500本を植えました。イオングループでは、2010年から2012年まで、ベトナムのフエ省で合計7万本の植樹活動を行ってきました。

「ベトナム ハノイ植樹」は同国において2カ所目の植樹活動となります。イオングループでは、生物多様性の保全のため、これからも国内外で皆さまとともに木を植えてまいります。



ミャンマー

10

ミャンマーで
小学校開校式を開催

2014年3月28日、29日、ミャンマー連邦共和国(以下ミャンマー)ヤンゴン市においてイオンワンパーセントクラブ「学校建設支援事業」で建設した同国内で11校目の小学校となる「イオンマホガニースクール」の開校式を開催しました。ミャンマーでは、学校の不足や老朽化、教員の不足などにより教育環境が整っていない地域が多くあり、イオングループでは3年間で30校の小学校建設や教員育成を目標に取り組んでいます。

開校式には「学校建設支援事業」にご賛同いただいている声楽家の由紀さおり様、安田祥子様、元体操選手の鹿島丈博様、水鳥寿思様、元新体操選手の田中琴乃様にもご参加いただきました。



カンボジア王国

11

カンボジアでの植樹

2014年3月、カンボジア王国・イオンモールプノンペン敷地内においてプノンペン市長、駐カンボジア日本大使にもご出席いただき、「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭を開催しました。当日は地域の皆さま約1,500名にご参加いただき、チョティル、コーキ、ニンルンなど地域に自生する樹木を中心とした苗木を含む21種、約10,000本を植樹しました。

「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭は、ショッピングモールが緑に包まれ地域社会にとけ込んだ場所になること、さらに緑を育むところが世界へと広がっていくことを願い、新設するモールの敷地内にその地域に自生する「ふるさとの木」の苗木を、地域のお客さまとともに植えて、大切に育ていく活動です。



不断の安全追求から生まれる安心の獲得

人の健康や命にかかわってくるさまざまな安全への取り組み。

安心しておいしいただき、ご利用いただくために徹底した取り組みを推進します。



安心してイオンモールに ご来店いただくために

防災協定の締結

イオンモールは、国内のモールで防災活動への協力などに関する協定書を地方行政と締結しています。万一の際には緊急避難場所として駐車場を開放したり、核店舗のイオンが地域住民の方に生活物資を提供したりするなど、それぞれの地域の状況に合わせて、災害対策や防災の拠点として各モールが地域を支える体制を整えています。



協定調印式
(イオンモール
名古屋茶屋)

防災訓練

多くのお客さまをお迎えするイオンモールでは、万一の災害に備えて、専門店のスタッフも参加して避難誘導や消火活動などの防災訓練を定期的に行っています。ま

たモールによっては非常時に備えて飲料水、簡易トイレ、緊急避難用の大型テント「バルーンシェルター」などを備え、非常時には迅速に地域の防災拠点として機能します。



バルーンシェルター

さらに安全性強化の取り組み

お客さまの安全・安心をより強固にするため、「災害に強い施設づくり」をめざすとともに、万一被災した際に、早期に地域の復興拠点施設のひとつとしての機能を回復することができるよう、耐震ならびに震災対策に取り組んでいます。

耐震性能のさらなる強化

強い地震が発生した際に特に危惧されるのが、天井そのものの崩壊や天井付近の設備機器が落下することです。既存店での耐震強度の確認、補強工事ももちろん、2011

年の東日本大震災以降の新店では、天井が広範囲に落下するのを防ぐため、主要箇所において耐震性能をより高めた工法を採用しました。また落下物が発生しないようメイン通路の天井を膜天井やスケルトン化したほか、天井部・天井内に設置している設備機器および大口径配管についても耐震性能を高めています。受水槽についても、東日本大震災や阪神・淡路大震災時の地震特性を分析し、同規模の地震に耐えることができるよう、耐震および耐久性を考慮したものを採用しています。

被災時の復興拠点としての機能確保

イオンモール幕張新都心では、耐震性能の高いガスインフラを利用し、930kWの自家発電設備（コージェネレーションシステム）を設置しました。災害などの停電時も建物最大電力の15%が供給可能で、モールを復興拠点として機能させます。

また、セキュリティシステムの電源や給水電源はもちろん、防災センターや運営管理事務所など、主要な管理諸室には電源供給を最優先で確保し、地域の復興拠点のひとつとしての機能維持に努めます。

また、イオンモール名古屋茶屋やその他の新規モールにおいても、太陽光発電や非常用発電設備の供給能力の向上、施設の耐震化を行うとともに、断水・停電状態であっ

ユニバーサルデザインの取り組み

イオンモールに来店されるお客さまは乳幼児から高齢の方まで幅広く、ハンディキャップをお持ちの方、妊娠されている方、外国人の方などさまざまです。あらゆるお客さまに安心して快適にお過ごしいただけるよう、当社は2005年から本格的なユニバーサルデザインを導入してきました。また導入後も定期的にアンケートを行うなどしてお客さまからのご意見を伺い、ハード・ソフトの両面から継続的な改善に取り組んでいます。



館内には車椅子やベビーカーを備えています。また、介助が必要なお客さまのために、モール中央入口にインターフォンを設置しました。



トイレの快適さや使いやすさは特に重視しているポイントです。広く多機能な「優先トイレ」、お子さま専用設計された「キッズトイレ」、オストメイト対応トイレなどが揃っています。



お買い物の合間に休憩できるベンチやソファを通路に多数配置。ご高齢の方やハンディキャップをお持ちの方の優先席も設けています。



駐車場には身障者専用スペースを確保。専用のリモコンをお渡しし、必要とされる方が確実に利用できる環境を整えています。

ても、受水槽内の水を飲料用に利用することができる仮設給水口を設置するなど復興拠点としての機能を確保しています。

イオンモール大阪ドームシティにおける 防災の取り組み

2013年5月にオープンしたイオンモール大阪ドームシティは、防災対応型スマートイオン1号店です。地域の防災拠点としての役割を担うとともにエコの機能を備えたエネルギーシステム構築に向け、大阪ガス株式会社と協働しています。具体的には「非常時の電源確保」や東日本大震災の経験等を踏まえた「建物の安全性強化」を行っています。

食品衛生管理

食品の取り扱いや日付・温度管理、作業場内の衛生管理、従業員の健康管理など、多岐にわたって独自の厳しいルールを定めています。また、全飲食店を対象に抜き打ちを含む年2回の食品衛生調査を実施しています。2013年度は講習会実施など食品衛生に関わる教育を強化しました。

2014年4月1日には食品衛生検査基準を見直し、さらに厳しい管理体制を敷くために「食品衛生規則」を一新、食の安全・安心に取り組んでいます。



どこからでも話しかけやすいインフォメーションカウンターと見やすさを追求したサインで館内をわかりやすくご案内します。イオンモールつくばでは、直感的に操作できるタッチパネル式の館内案内や、季節ごとのインフォメーションなどを映像でご案内するデジタルサイネージを館内随所に設置しています。

すべての人が生き生きと働く職場の実現

私たちは人権を尊重し、性別や国籍に関わりなく企業の発展に参画できる組織、またすべての従業員の能力が最大限に発揮できる職場を実現します。



多様な人材が活躍できる企業として

FOCUS 女性が活躍しやすい環境・制度づくり

性別を問わず優秀な人材が能力を発揮し、より多くの女性が経営に参画する企業になること。これは当社が長期的に取り組んでいる課題のひとつですが、現状では従業員の7割以上を男性が占めており、上位職になるほど

キャリアアップセミナーの開催

2013年8月27日、女性社員がこれまで以上に活躍するための「女性の活躍推進委員会」キャリアアップセミナーを開催しました。外部講師を招き、出産や育児と仕事との両立について、働きやすい職場環境についてなどを参加者同士で活発に意見交換した後、役員による講演を実施。参加者からは「改めて頑張りたいと思った」「当事者意識が大切と感じた」などの声が上がりました。



キャリアアップセミナーに参加した女性社員

男性の比率がさらに高くなる傾向が見られます。2012年度は、女性社員が活躍しやすい環境・制度づくりを進めるために、「女性の活躍推進委員会」を労使協調で立ち上げました。さらに2013年度は「女性の活躍推進委員会」キャリアアップセミナーを開催しました。

今後も女性社員によるキャリアアップミーティング、女性の活躍に向けた労使共同宣言なども検討し、働きやすい環境づくりを進めてまいります。

キャリアアップミーティング「座談会」の実施

女性社員に不安や悩みを解消する手がかりを得ていただくため、2013年10月25日にキャリアアップミーティングを実施しました。さまざまな属性の女性社員に、それぞれの状況および悩みと今後のキャリアについて話し合っていました。



それぞれの立場から意見交換を行う参加者

■ 社員データ (2014年2月末現在)

	2013年度	2014年度
社員数 (うち臨時雇用)	1,535名 (493名)	2,876名 (1,187名)
新入社員数 (男性／女性)	83名 (29名／54名)	82名 (45名／37名)
障がい者雇用数	16名	19名
育児休暇取得者数 (うち男性)	7名 (0名)	16名 (1名)

障がい者雇用率は1.48%となりました。引き続き募集を行い、雇用率の増加に取り組んでまいります。

人材のグローバル化

中国やアセアン各国で展開するショッピングモールについては、将来的に現地の人材が責任者となり、その国の言語や慣習に基づいてローカルスタッフで運営できるようにするという基本方針のもと、人材のグローバル化も急速に進めています。2014年度の新卒社員82名のうち7名が外国籍の社員です。現在、中国およびアセアンに設立された現地法人の事務所やモールでは、約400名のローカルスタッフがいオングループの一員として活躍しており、日本国内のモールで短期研修を行うなど、人的交流も盛んになっています。国籍も経歴もさまざまな人材がいオンピープルとしての共通の価値観のもと、一体となって力を発揮する企業をめざします。

■ 現地法人ローカルスタッフの内訳 (2014年2月末現在)

中国	291名
カンボジア	13名
ベトナム	66名
インドネシア	22名

能力を最大限に引き出すために

成長を促す教育・訓練制度

2013年4月、国内外の出店加速を見据え、人材育成の機能を一層強化するため、人事統括部の組織下に社員教育や研修の専門部署となる「教育部」を新設しました。イオンの基本理念である「お客さま第一」を実現するため、現場実務に沿った人材育成、教育訓練研修を行っています。今後はフレックス社員をコミュニティ社員へ登用するための研修や、入社6ヵ月後の新入社員フォローアップ研修などの実施を検討しています。

子育て支援

社員が仕事と家庭での役割を両立できるよう、当社ではさまざまな取り組みを進めています。子育て支援については、次世代育成支援対策推進法に基づいた行動計画を策定し、厚生労働省より子育てサポート次世代認定マーク「くるみん」を取得しています。単に制度を整えるだけではなく、安心して子育てのための制度を利用できるような企業風土づくりに取り組んでいます。

妊娠から子育てまで、必要な知識や手続きを独自のガイドブックにまとめ、申請書類もわかりやすく統一。これらの取り組みにより、千葉県労働局から次世代育成の認定事業主に認定されました。



コミュニティ社員制度

仕事と家族の介護などを両立したい社員のために、コミュニティ社員制度を設けています。これは、転勤転居の対象となる総合職を一定期間離れて、自宅から通勤できる場所に勤務地を限定するもので、社員それぞれの事情に合わせた働き方ができるようにしています。

誇りを持って働く。 余裕をもって働く。

イオンモール労働組合
中央執行委員長
石山 修



イオンモール労働組合では、できる限り組合員と直接会って、声を聴き、またわれわれの思いを伝えていくことを心がけています。会社との対話の中から出てきた「適正な労働時間によって生まれた余暇で充実した生活を送り、個々の感性を磨いていくことが、文化・芸術・音楽・スポーツなどそれぞれに特徴を持ったモールを展開していく上での抽斗（ひきだし）にもなる」というものがあります。組合もこの考え方には基本的に賛成であり、ワークライフバランスの充実につながる労働時間の適正化推進に向け、これまで以上に力を入れていきたいと考えています。

健全で良好なパートナーシップの推進

私たちはこれからもパートナーと一緒に、普遍的倫理に基づき、さまざまな国の商習慣に配慮しつつ健全で一層強固な協力関係を築きます。

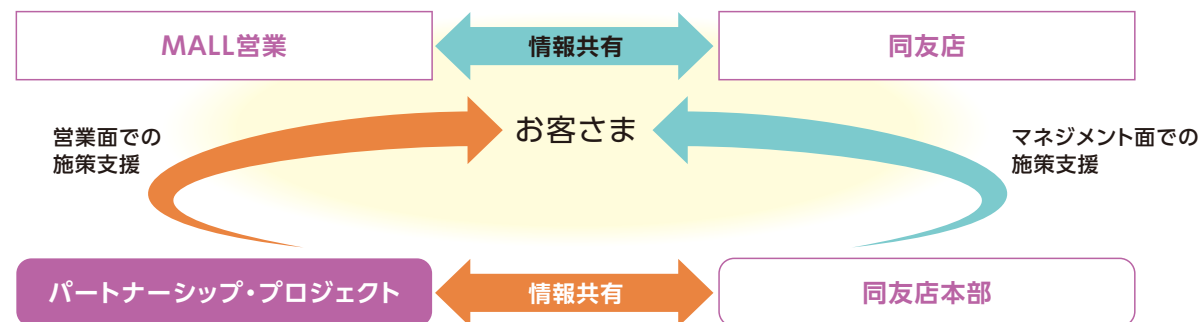


より強固なパートナーシップのために

パートナーシップ・プロジェクト

専門店の皆さまがイオンモールで店舗展開を行っている利点を活かし、よりよい営業活動をしていただくため、2014年度よりパートナーシップ・プロジェクトを設立しました。たとえば、本部主導での複数店舗にわたる営業取り

■ パートナーシップ・プロジェクトのイメージ



モールに出店いただく専門店は、私たちの大切なビジネスパートナーです。売場づくりのアドバイスや接客力向上教育、ITを活用した売上情報の収集・分析など、小売に精通したディベロッパーならではの運営サポートを行うとともに、イオンモールが持つマーケティング情報の共有化を効果的に行います。さらにイオンの同友店本部とも連携をとることでパートナーシップの深化を図っていきます。

組みや、イオンモール限定商品の販売活動など、パートナーシップ・プロジェクトで専門店の皆さまと取り組み可能なことは多岐にわたります。

専門店の皆さまと、それぞれのワークショップをはじめ、フェアやコラボレーションを行うことで、お客さまの誘引を図り、お互いにとってさらなる利益となることをめざし、今後もさまざまな取り組みを展開していきます。

イオン同友店会は、「商業を通じて地域社会に奉仕する」との企業理念に基づき、その志を一つにする友が「同じ思考」・「同じ行動」の精神で、お互いの事業において、共に成果をあげることがめざすパートナーを会員とした団体です。同友店会の会員が連携・協力することで規模の相乗効果により、人材育成や従業員満足を通じた収益拡大や、地域貢献活動の推進などを効果的に行うことを目的としています。

従業員の快適な職場環境のために

当社にとって、すべてのパートナー企業さまは成長を支え合う原動力です。各モールには従業員の皆さまからの質問や意見、提案を募るボックスを設けており、ご意見や提案にはゼネラルマネージャーが回答し、モールの運営に反映するなどしています。また、モールで働くすべての方に快適な職場環境をご提供するために、十分な広さの休憩スペースを設けるほか、従業員専用のコンビニエンスストアやパウダールームなどを設置するモールも順次増やしています。

さらに、販売促進用のポスターやPOPを簡単に制作・印刷できるメディアステーションを設け、モールで働く皆さまをサポートする環境を整えています。



従業員用休憩スペース



メディアステーション



パウダールーム

従業員のスキルアップをめざして

2013年11月28日、イオン同友店会の主催により「第3回イオン同友店ロールプレイングコンテスト全国大会」が開催されました。これは当社をはじめイオングループ各社が運営する全国のショッピングモール、総合スーパーに出店している約25,000店(約8,000社)の同友店会を代表する従業員が接客技術を競う、国内最大規模のロールプレイングコンテストです。当日は全国7地区から選抜された33名が、来店シーンを想定したロールプレイングを通じて日頃の成果を披露し、身だしなみや言葉遣い、商品知識、提案力などが審査されました。



コンテストの結果

最優秀賞:
イオンモール浜松市野
青葉 奈々(AIGAN)

物販部門第1位:
イオンモール石巻
内藤 由佳子(THE SHOP TK タケオキクチ)

食品・飲食・サービス部門第1位:
イオンモール姫路リバーシティ 大釜 亮二(プリッツ)

物販部門第2位:
イオンモール寝屋川 木崎 亜樹(ドラッグセガミ)

食品・飲食・サービス部門第2位:
イオンモール札幌発寒 寺崎 彩(ルピシア)

審査員特別賞:
イオンモール苫小牧 岩崎 智子(earth music&ecology Naturalstore)
イオンモール倉敷 大月 千恵(マーブルインク)
他、全33名

最良のパートナーになるために

このプロジェクトは、イオンモール株式会社、イオンリテール株式会社のモール事業の管理・運営の統合に伴い、それまでは各モール個別で行っていた営業に関する業務を、本部でも同時に行う「本部における営業窓口」として設立されました。特に「営業活動に関する相談はこのプロジェクト」という認識も浸透しています。

イオンモールは「衣・食・住・サービス・アミューズメント」など、さまざまな業種が集約されていることが魅力のひとつですから、キャンペーンなどでも業種による偏りが起きないように心がけています。

同友店の皆さまにとって、イオンモールが、「共に歩んでいくパートナーとして最良」と思っていただけよう、各モール・事業部スタッフ、本社関連部署と協力して、将来にわたる中長期的な提案を行っていききたいと考えています。

営業本部 営業統括部
パートナーシップ・プロジェクト
マネージャー

川原田 将詞



地域から地球へ、環境保全の推進

私たちは環境負荷を最小限に抑える最新の技術を導入し、地域の生態系を守る仕組みをつくり、省エネや廃棄物管理の徹底をすることで、自然と調和したまちづくりを推進します。



先進的なエコモールをめざして

イオンモールは新規出店やリニューアルを行う際、より環境への負荷が少ない最新の設備を導入するほか、継続的にエネルギー関連設備の検証と改善を行い、得られた成果を全国のモールで水平展開しています。

イオンモール東員、 「いきもの共生事業所®認証」取得

2013年11月、三重県にオープンしたイオンモール東員では、「イオン ふるさとの森づくり」に加え、雨水の地中循環を行う「雨の庭」、地域の生きものが住みやすい環境空間である「ふれあいパーク」などを敷地内に設置しています。これら生物多様性に対する取り組みが評価され、一般社団法人 いきもの共生事業推進協議会 (ABINC) により、一般社団法人 企業と生物多様性イニシアチブ (JBIB) の「いきもの共生事業所®推進ガイドライン」に基づき、ショッピングモールとして初めて「いきもの共生事業所®認証(都市・SC版)」を取得しました。



雨水を循環して利用

イオンモール幕張新都心、 環境性能評価の認証取得

イオンモール幕張新都心は日本国内の大規模商業施設としては初めて、国際的な建築物の環境性能評価である「LEED認証」を取得いたしました。主要評価項目である、土地利用、節水、エネルギー効率、材料と資源、室内環境のすべてにおいて高い評価を得ることができました。さらに、日本国内で最も認知されている環境性能評価である「CASBEE」の第三者認証も併せて取得することができました。

国内でトップレベルの環境性能を備えた大規模商業施設として、地域の皆さま、ご来店いただく皆さまにさらなる安全・安心の提供をめざしてまいります。

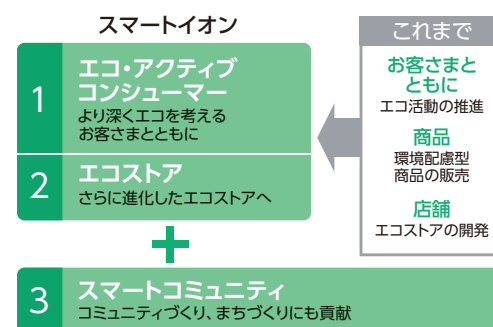


LEED認証

CASBEE

スマートイオンの展開

「スマートイオン」とは、より深くエコを考えるお客さま、さらに進化したエコストアが一体となり、持続可能なコミュニティづくりやまちづくりにも貢献する、新しい商業施設のあり方です。2013年12月にオープンした「イオンモール幕張新都心」は、イオンがつくるスマートコミュニティの実現、自然エネルギーの最大活用、分散化電源による事業継続計画 (BCP) 拠点化などに取り組んでいます。



EV(電気自動車)充電器の設置拡大

地球環境の保全、持続可能な社会の実現をめざし、CO₂を排出しない電気自動車やプラグインハイブリッド車の普及に対応するため、各モールにEV(電気自動車)充電器設置を進めております。



EV充電器をつないでいる様子

「イオン ふるさとの森づくり」への 継続的な取り組み

1991年にマレーシアのマラッカでスタートした「イオンふるさとの森づくり」。当社でも新しいショッピングモールがオープンする際には、地域の自然環境に最も適した、その土地に自生する樹木をお客さまとともに植えています。「イオンモール幕張新都心」の植樹にて累計植樹本数が1,000万本に到達、2013年11月、記念碑除幕式が行われました。今後も植樹活動を積極的に展開していきます。

自然の力を利用したエコ

太陽光発電

国内外の一部モールでは太陽光発電システムの設置を完了し、使用電力の一部をまかなっています。イオンモール福津、イオンモール幕張新都心では、災害などによる停電時にも太陽光パネルで発電した電力を活用できるシステムを導入しています。

壁面緑化／植栽

モール壁面の緑化は景観を向上するだけでなく、夏季の館内における温度上昇を抑制し、冷房で使用するエネルギーの削減につながります。イオンモール幕張新都心では、建物の壁面を緑化するとともに、遊歩道「グリーンウォーク」や屋上公園「スカイパーク」を設け、緑豊かな憩いの空間を演出しています。



壁面緑化(イオンモール幕張新都心)

公共交通機関の利用促進

国内のイオンモールは、電車や路線バスなど公共交通機関でご来店いただける環境を整えています。鉄道会社や交通局と連携して電車でご来店されたお客さまに特典を提供するなど公共交通機関を利用しやすい環境づくりを進めています。地域の皆さまが通勤などの際にモールの駐車場に自家用車を駐車し、そこから公共交通機関で最寄駅や中心街へ移動する「パーク&ライド」も実施するなど、交通渋滞の緩和や大気汚染の低減に貢献しています。



イオンモール幕張新都心前のバス停

地域から地球へ、環境保全の推進

各モールにおける日々の活動

水質保全

排水基準を順守するためにすべての飲食店に定期的な厨房のグリストラップ清掃を義務づけ、油やごみの流出防止に努めています。そのうえで各モールでは、万一、店内の厨房から油が流出する事故が発生した場合に外部への拡散を防止するための訓練を定期的の実施しています。また、一部のモールでは排水を浄化するためにバクテリア分解を利用しています。培養液によりバクテリアを増殖させ、そのバクテリアが体内にリンや窒素を取り込むことによって、油分などを分解して水質を浄化します。



節水シール

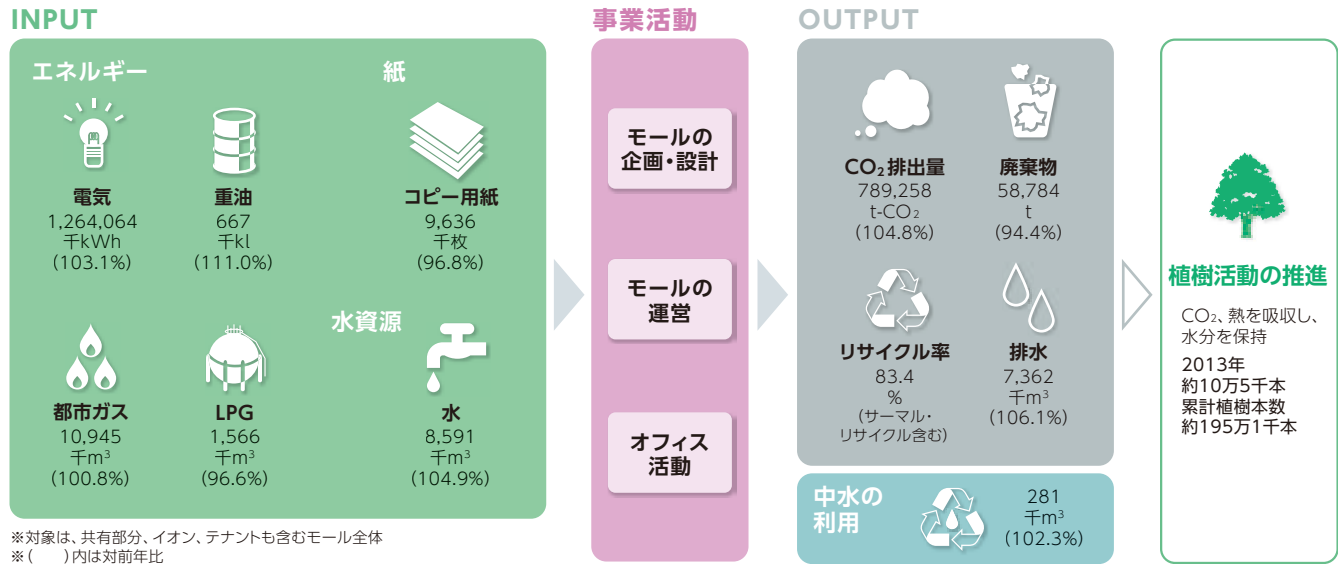


ごみ庫内に設けられた防油堤 グリストラップ清掃



万一の事故に備えてチューブ型油吸収材を常備

2013年度インプット／アウトプット



節電対応

各モールでは四半期ごとの電力使用量の目標値を定めており、省エネルギーの観点から、お客さまの安全や快適さに影響を及ぼさない範囲で日常的な節電に努めています。具体的には、社内の照度基準を確保した上での照明の間引き、お客さまの少ない時間帯における駐車場の一部エリア閉鎖や一部エレベーターの運転停止、館内の適切な空調管理などが挙げられます。

省エネへの取り組み

空調冷水カスケードシステム

当社が開発した「空調冷水カスケードシステム」は、複数の空調機をカスケード(連なった)配置とし、夏季の冷水搬送動力の低減ときめ細かな空調負荷対応を実現しました。冬季は館内の人体発熱や照明発熱を冷水で熱吸収させ、外気を温めて送風に利用。一般的なシステムと比較して約50%のエネルギー削減を可能にし、CO₂排出量削減に貢献します。

LED照明

各モールの館内照明については、従来の蛍光灯や白熱電球から、より省電力かつ長寿命なLEDへの切り替えを進めており、専門店にも導入を呼びかけています。2013年にオープンしたイオンモール春日部、イオンモール幕張新都心では、いずれも共用部のLED採用率100%を達成しています。また屋外の電飾サインにも消費電力の少ないLED光源ユニットを採用しています。

環境コミュニケーション

環境への取り組みは従業員だけで進められるものではなく、専門店やお客さまのご理解・ご協力が必要です。専門店のスタッフには小冊子の配布やバックヤードの掲示物などご協力をお願いしています。また館内ではエコステーションやエコベンチを通してお客さまへの環境コミュニケーションを行うとともに、エコバッグの持参やリサイクルへのご協力を呼びかけています。



モール内のエコインフォメーション



環境コミュニケーション小冊子

資源を有効に活用するために

「見える化」による廃棄物削減

廃棄物の削減では「何を、どこで、どれだけ廃棄しているか」を明らかにし、課題として意識づけることが重要です。各モールでは、廃棄物を基本17品目(右表の番号付きのもの)に分別したうえで品目ごとに計量するシステムの導入を進めています。2013年度のリサイクル率は83.4%でした。専門店は各品目を計量した後、計量済みのシールを貼り、品目ごとの保管場所にまとめます。分別されたごみのうち、可能なものについては極力リサイクルに回し、各品目ごとにリサイクル率を集計しています。



廃棄物は品目別に分別して計量。どの専門店からどれだけの廃棄物を出しているかをデータで把握しています

資源回収・リサイクルの促進

イオンモールでは、ご家庭の古新聞や古雑誌をお持ちいただいたお客さまに重量に応じたリサイクルポイントを発行し、一定のポイントがたまるとイオン商品券と交換するシステムを導入、古紙のリサイクルを促進しています。回収はモールに設置した専用のボックスで行うため、お買い物のついでにいつでもお持ちいただける点でもお客さまからご好評をいただいています。

また、イオンモール幕張新都心をはじめとしたイオンモール各店では、ご家庭のペットボトルを回収し、WAONポイントを付与する取り組みを行っています。



ecomooの様子

2013年度の廃棄物排出総量とリサイクル率

	廃棄物排出総量	リサイクル率
1 生ごみ	12,009t	83.9%
2 段ボール	17,320t	100.0%
3 雑芥	16,308t	56.3%
4 廃プラスチック	2,518t	99.9%
5 ビン	369t	98.0%
6 缶	612t	100.0%
7 発泡スチロール	109t	100.0%
8 廃油	1,419t	100.0%
9 紙類	2,594t	100.0%
10 粗大ごみ	153t	57.9%
11 その他不燃ごみ	1,300t	73.0%
12 廃蛍光灯	67t	90.0%
13 廃電池	9t	79.8%
14 割り箸	100t	99.9%
15 廃アルカリ・剥離剤	32t	64.3%
16 汚泥	3,419t	92.5%
17 廃エンジンオイル	—	—
店頭回収:アルミ缶	80t	100.0%
店舗回収:食品トレイ	26t	100.0%
店舗回収:牛乳パック	68t	100.0%
店舗回収:ペットボトル	271t	100.0%

リサイクル率(サーマル・リサイクル含む) **83.4%**

※対象は、共有部分、イオン、テナントも含むモール全体

環境活動のグローバル展開

2014年4月、中国・江蘇省に「イオンモール蘇州呉中」をオープンしました。このモールは、蘇州市の新たな景観都市のモデルとなっている総敷地面積110万m²の公園「イオングリーンアイランド(永旺緑島)」の中心に位置しています。“人と環境に配慮したモール”の実現をめざし、さまざまな環境への取り組みを行っています。



イオンモール蘇州呉中

太陽光の活用

屋上には約800m²の太陽熱温水システムを設置し、12t／日の温水をフードコートに提供。また、屋根の先端部分には約500m²、約50kWの発電が可能(晴天時)なソーラーパネルを設置しています。



ソーラーパネルを設置した屋根

節電の取り組み

館内共用部の照明、外部サインすべてに、消費電力の削減とCO₂排出抑制に寄与するLED器具を採用しています。また、屋上ハイサイドライトのガラス面には、UVカット機能を持った省エネガラスを使用。モール部でも膜材を使用することで直射日光を遮り、館内の空調負荷を低減しています。



館内LED照明と省エネガラスを使用したハイサイドライト

緑化の取り組み

大規模な壁面緑化を実施。屋上駐車場にはツタやバラなどのツルを絡ませた日よけの庇(ひさし)を導入。また平面駐車場の歩道や駐車スペースの緑化部分にはECOコンクリートレンガを使用し、特に駐車スペースはそのレンガに芝生を植えた緑化駐車場にしています。



屋上緑化の様子

環境コミュニケーション

これら環境に対するモールの取り組みをお客さまにお伝えすることで環境意識啓発につなげる「エコインフォメーション」を設置しています。

中国においても環境意識は次第に高まりを見せています。イオンモール蘇州呉中では、中国の建設省が認証する建物の環境評価基準制度である「緑色二星」を取得しました。これは、日本の建築環境総合性評価システム(CASBEE)に該当する評価指標で、中国イオングループでは初の認証取得となります。



エコインフォメーション

Interview

モノを買うだけではない、人が集うコミュニティモールをめざす

イオンモールでは、お客さまに居心地のよい空間を提供するため、適切なモールの管理・運営に尽力しています。その取り組みの一つとして、モールに出店している専門店(同友店)との協力関係を強くし、円滑にするため、2014年から営業本部の直轄として「パートナーシップ・プロジェクト」を設置しました。これは、現在取引する約8,000社の同友店に対して情報共有や販売支援の強化を図ることで、イオンモールならではの新たな企画を提案しお客さまの満足を第一とした収益向上を目的とするものです。一元化した同友店の組織を基盤に、テナント(専門店)間のコラボプロモーションの実施、シーズンプロモーションの強化などを促進します。

同プロジェクトの主な実績では、2014年6月の「イオンプレミアムフェス」において、23社(出店区画数では約1,000区画)の専門店とコラボプロモーションを実施しました。

期間中、イオンモールの店舗でしか購入できない商品の提供や、限定サービスを企画し、専門店の新たな魅力を引き出すことで他店との差別化を図りました。専門店主導によるプロモーションは、他のモールにも普及し実施するケースが着実に増えています。モール運営の効率化・進化を図る上で、パートナーシップ・プロジェクトは今、最も力を発揮しているグループです。

営業部のスタッフには「現場力」が求められます。モールで各専門店とコミュニケーションをとり、お客さまの動向を見つめ、施設の安全安心に気を配る能力です。この現場力を強化すべく、2011年度より「次世代マネジメントリーダー研修」、2014年度から「営業スキルアップ研修」を実施しています。ショッピングモールやゾーニングの原理・原則の学び、同業他社の取り組みを研究するなどして、モールの管理・運営能力を高めています。

イオンモールでは、全体の約3分の1が地域行政誘致型モールであり、これまでも自治体の行政サービスコーナーを設けるなどの公的サービスを行っていましたが、近年はこうした要請がさらに高まっています。各自治体と協力して実施する県産品フェアなどの地域活性イベントも盛んに行っています。そのため、近年ではモール内にイベントスペースを広くとる、あるいはイオンホールを拡充するなどして地域の情報発信の場としてもご利用いただけるように配慮しています。また、環境保全では、施設内において、主に省力機器の導入、イオングループの省エネ手順の標準化を推進し、節電、節水など光熱費の低減・削減を図っています。専門店(同友店)についても、全店を対象に当社のCSRを開示した上で、売り場の照明のLED化、省力機器の導入などの協力を求めています。防災については、災害時に地域への協力支援を約束する防災協定を締結しています。これにより、災害時には物資の供給を担うモール、避難場所として開放するモールなど地域ごとに各モールが担う役割を明確に設定し、有事に向けて備えています。

今後も地域に根ざしたコミュニティモールとして、「単にモノを買うだけではない、人が集うモール」をめざし、引き続き努力を続けてまいります。

イオンモール株式会社 専務取締役 営業担当 岩本 博



営業スキルアップ研修の様子



確定申告の会場として



避難されている福島県浪江町の皆さまに「なみえのしゃべり場 in 宮城」を開催



コーポレート・ガバナンスに対する取り組み

当社はお客さまをはじめ、地域社会、お取引先、株主の皆さま、従業員などの各ステークホルダーに対する責任を果たしていくことが、長期安定的な企業価値の向上につながると考えており、より一層の経営の透明性と効率性の向上、コンプライアンス、リスク管理の強化を推し進め、さらなるコーポレート・ガバナンス体制の充実を図っていきます。

内部統制システム

取締役の意思決定に関する記録については、起案部門の各業務執行取締役が社内規定に従って決裁書、会議議事録などを作成し、適切に保存および管理します。取締役会は毎月のほか必要に応じて臨時に開催し、社長決裁以上の当社に重要なリスクの生じる恐れのある意思決定事項に関しては、社長の諮問機関として常務取締役以上の取締役および常勤監査役が中心メンバーとなる経営会議を設置して、さまざまな視点から協議を経た上で、社長決裁ないし取締役会決議を行います。

監査・モニタリング体制

当社は内部監査部門として、社長直轄の部署である経営監査部を設置しています。経営監査部は、全社各部署に対し業務監査を実施しており、内部統制を確実に機能させるとともにその有効性検証の一翼を担っています。監査結果は都度社長に報告され、経営会議および監査役に対して定期報告を実施しています。取締役は、当社の業務または業績に影響を与える事項、法令違反その他コンプライアンス上の問題のうち、当社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実があることを発見したときは監査役会に速やかに報告します。監査役4名のうち2名は一般株主と利益相反が生じる恐れのない独立役員とし、監査役からの取締役に対する業務の執行状況についての報告要請には他の事項に優先して迅速かつ誠実に対応します。

リスク管理

災害・環境・コンプライアンスなどの事業リスクについては、全社レベルでのリスク管理機関として経営会議の下部機構としてのリスク管理委員会を設置して、当社全体のリスクの洗い出しを実施するとともに、リスク管理運営状況の把握、情報交換、リスク管理体制の継続的な見直しを図り、リスク管理の策定方針を起案します。この方針により「業務分掌規則」などで定められたそれぞれのリスク管理主管部門にて規則、取扱要領などの作成を行い、定期的に見直しを実施します。これらの周知については、社内の研修などにより教育を実施するとともに電子掲示板などで全従業員に徹底します。緊急かつ重大な損失の危険が発生した場合は、「経営危機管理規則」に基づき適切な情報伝達および意思決定を行い、被害を最小限に止めるなどの対応を行います。

反社会的勢力排除に向けた取り組み

コンプライアンス経営の徹底、企業防衛の観点から、反社会的勢力とはかかわりを持たず、不当な要求に対しては毅然とした態度で対応し、排除することが企業の社会的責任であることを認識しています。万一反社会的勢力による不当請求があった場合には、個人的対応は行わず、民事および刑事の法的対応を含め、外部専門家や捜査機関とも緊密な連携を構築し、組織的対応をするものとしています。また「公益財団法人千葉県暴力団追放県民会議」に加盟し、平素から警察、防犯協会などと緊密に連携して、反社会的勢力に関する情報収集に努め、社内啓蒙活動をしています。

2013年度 SR会計報告

イオンモールでは、2002年度よりSR(Social Responsibility)会計によって環境保全活動や社会貢献活動のコストを把握し、CSR経営における指標としております。

2013年度は投資と費用を合計した総額が2012年度比141.6%の121億86百万円と過去最高額となりました。

これは、東日本大震災を発端とし省エネ活動に取り組んだ2011年度の総額を超えて過去最高となりました。

投資については太陽光発電システム・節水機器を中心とする省エネ・省資源活動にて前年比約2.4倍の53億83百万円、キッズコーナー新規設営などの社会貢献・福祉関

連活動にて前年比約10倍の48百万円と多額の投資をしております。

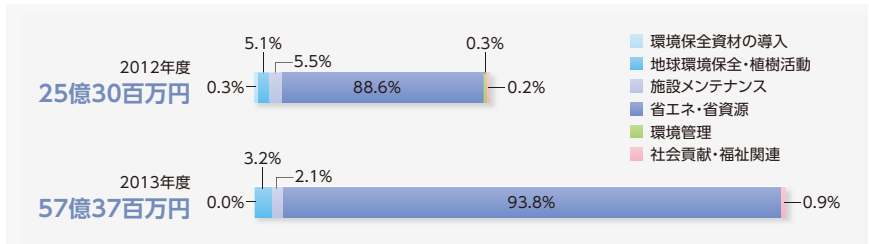
特に太陽光発電システムについては、イオンモールつくばやイオンモール幕張新都心などの新規モールにてメガソーラー(1,000kW)発電を推し進めたことで39億91百万円を計上しました。

費用については前年と大きな差はありませんが、環境影響評価業務などの環境関係調査業務と省エネ・省資源機器の管理運用費において、それぞれ前年比約150%を計上しております。

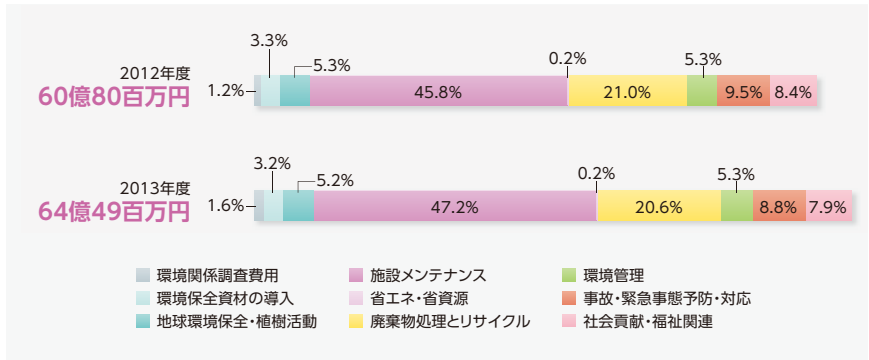
環境保全コストの主な内訳

	投 資			費 用			(単位:千円)
	2012年度	2013年度	前年比	2012年度	2013年度	前年比	
環境関係調査費用	—	—	—	70,141	104,395	148.8%	概 要
環境保全資材の導入	8,200	—	—	202,509	208,917	103.2%	
地球環境保全・植樹活動	129,076	185,069	143.4%	319,554	336,120	105.2%	
施設メンテナンス	138,467	120,000	86.7%	2,785,709	3,038,775	109.1%	
省エネ・省資源	2,243,393	5,383,698	240.0%	10,956	16,091	146.9%	
電気自動車充電スタンド	46,585	18,780	40.3%	2,877	4,157	144.5%	電気自動車普及支援 【支払い総額:51,804,070円 内補助金:8,270,000円】
エスカレーター	5,700	18,000	315.8%	—	—	—	
太陽光発電システム	42,447	3,991,571	9403.7%	1,130	1,769	156.6%	CO ₂ 発生がない太陽光による発電、100kW発電可能(屋上屋根250kW分はオンサイト事業)
LED	1,874,371	839,514	44.8%	—	—	—	消費電力の削減と長寿命器具によるCO ₂ 排出量の削減
LEDサイン	5,715	90,911	1590.8%	—	—	—	
節水機器	20,761	111,496	537.1%	—	—	—	
その他	247,814	313,426	126.5%	6,949	10,165	146.3%	
廃棄物処理とリサイクル	—	—	—	1,272,591	1,326,813	104.3%	
環境管理	6,661	—	—	331,265	341,848	103.2%	
事故・緊急事態予防・対応	—	—	—	577,155	569,703	98.7%	
社会貢献・福祉関連	4,810	48,362	1005.4%	510,203	506,487	99.3%	
計	2,530,607	5,737,129	226.7%	6,080,083	6,449,149	106.1%	

投資額 償却資産への設備投資のうち、環境保全目的の支出。効果は長期に及ぶ。



費用額 当期の環境保全対策として発生した額。原則として1年間のみ。



投資+費用総額の年度別推移

	(単位:千円)
2003年度	1,468,265
2004年度	1,829,829
2005年度	2,155,587
2006年度	3,300,748
2007年度	4,808,598
2008年度	6,405,580
2009年度	6,385,963
2010年度	7,702,219
2011年度	9,644,037
2012年度	8,604,029
2013年度	12,186,278

※2007年度下期以降は合併後の数値

期間: 2013年2月21日～2014年2月20日
範囲: イオンモール(株)ISO14001適用範囲内とする

①複合コスト 環境目的以外のコストと結合している場合についても、原則として全額計上しています。
②人件費 イオンモール従業員の人件費は原則として計上していません。ただし「施設メンテナンス」「廃棄物処理とリサイクル」は人件費を計上しています。
③投資 期中に発生した環境負荷低減の関連機器および施設への投資額で計上しています。(リース契約の場合は、費用に計上) 導入後、移管もしくは変動したものも導入時の金額が判明している場合は投資として計上していません。(氷蓄熱システムなど)
④減価償却費 減価償却費は計上していません。

第三者意見

サステナビリティ消費者会議代表、
(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会常任顧問

古谷 由紀子 氏

プロフィール

中央大学法学部卒業、立教大学博士課程前期修了。
2012年から(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会常任顧問、
2013年からサステナビリティ消費者会議代表。このほか、社会的責任に関する
円卓会議運営委員ほか、企業の社外委員、CSRレビューフォーラムレビュアーなどを務める。
著書に『消費者志向の経営戦略』などがある。



1. 地域の多様な課題に貢献

トップメッセージに「イオンモールのような大規模商業施設は、一企業だけのものではありません」と明確化し、地域の方々の生活に密着した公共施設としての機能を整備していることが評価されます。行政との防災協定や被災時の復興拠点としての機能確保、商店街の活性化などの地域の成長、募金活動などの社会貢献の拠点づくり、公共サービスの提供など、地域のコミュニティに大きく貢献していることがそれを示しています。そして、水質保全、節電、廃棄物、緑化、資源回収・リサイクルの促進など地域から地球の生態系を守る仕組み作りも充実してきています。これらの地域への取り組みを多くのモールに拡大していくことを期待します。

2. 多様なステークホルダーとの関係強化に消費者も加えたCSRへの期待

国内135の施設、海外7の施設の運営に関わる貴社の社会への影響力の増大とともに、地域の特性にあわせて、行政や地域の協会・組合、そしてテナントの皆さまとのパートナー作りをしていることが注目されます。このような貴社の多様なステークホルダーの皆さまとの関係が貴社のCSRの取り組みを進展させていくことになると考えられます。消費者との関係では環境コミュニケーションや資源回収など消費者との協働にも力を入れています。持続可能な未来の構築には消費者の力が欠かせないことから、もう一歩進め、これからの社会をともに築く消費者をパートナーとして育てる啓発・教育なども検討されてはどうか。貴社の持つ関係企業との強固なパートナーシップを活用することも可能でしょう。ISO26000

の「消費者課題」にも消費者啓発などが含まれています。特に貴社が重視している環境取り組みなどは貴社の人材や情報、そして環境コミュニケーションや資源回収などの実践がよい題材になるように思われます。

3. 従業員とともに取り組むCSRの発展

トップメッセージに「従業員の皆さまには、万一の際にイオンモールが頼れる場になることを誇りに思うとともに、それぞれがCSRに対する理解を深めてほしいと考えております」が注目されます。貴社は従業員をステークホルダーとして重視し、従業員の人権を尊重し、その成長を促す教育・訓練に力を入れていることから、CSRの促進につながる従業員教育についても期待しています。従業員はCSRを具体的に推進していくときの要のパートナーだからです。

4. CSRの深化

CSRの取り組みについては、ISO26000の「5つの柱」をベースに、貴社にとっての具体的な課題を明確にしていること、SR会計を含むCSRの取り組みをデータによって情報開示するなどCSRが徐々に進展していることが評価されます。今後期待したいのは、貴社での積極的な取り組みだけではなく、貴社の活動が社会に及ぼすマイナスの影響、あるいは貴社のCSRの取り組みの現状の課題を率直に開示して、今後の取り組みにつなげることなどにもチャレンジされると貴社のCSRはより深化していくものと考えます。イオンモールCSR会議を中心にしたCSR全体のマネジメントに期待します。

イオンモール データ集

各ショッピングモールの2014年度データ（2014年6月現在）

※2014年6月8日にイオンモール名古屋茶屋は名古屋市の津波避難ビル指定を受けました。
※防災協定の欄はイオン株式会社が包括提携協定を締結しているものも含みます。

東北エリア

	開店年月	総賃貸面積 (約㎡)	駐車台数 (約台)	植樹本数	モール 従業員数	防災協定 締結年月	AED 設置台数	献血 参加人数	登録身障者 専用駐車台数	氷蓄熱	太陽光 発電	EV 充電器
イオンモールつがる柏	1992年 11月	40,000	2,600	72,000	870	2006年 8月	3	1,044				
イオンモール下田	1995年 4月	59,000	4,000	50,000	1,490	2006年 7月	4	529				
イオンモール秋田	1993年 9月	58,000	3,800	43,000	1,992	2006年 5月	6	9,754				
イオンモール大曲	2008年 10月	48,000	2,900	15,208	1,012	2008年10月	1	312	12	○		
イオンモール盛岡	2003年 8月	46,000	2,800	26,000	1,573	2006年 8月	4	1,398				
イオンモール盛岡南	2006年 9月	42,000	2,400	17,044	1,939	2006年 8月	3	1,214				急速1普通1
イオンモール名取	2007年 2月	67,000	3,900	20,000	2,679	2007年 1月	3	3,541	24	○	○	普通2
イオンモール利府	2000年 4月	33,000	3,000	25,016	1,280	2006年 8月	1	509				
イオンモール富谷	2003年 3月	27,000	1,400	8,592	1,013	2006年 6月	4	981				
イオンモール石巻	2007年 3月	40,000	2,600	24,947	1,578	2006年11月	3	1,061	16		○	
イオンモール山形南	2000年 11月	26,000	1,700	21,027	821	2010年10月	4	889				
イオンモール三川	2001年 7月	40,000	3,300	27,662	745	2006年 7月	3	1,267				急速1普通1
イオンモール天童	2014年 3月	47,000	3,000	15,000	1,877	2010年10月	2	—	17			急速2普通2

北関東・北信越エリア

	開店年月	総賃貸面積 (約㎡)	駐車台数 (約台)	植樹本数	モール 従業員数	防災協定 締結年月	AED 設置台数	献血 参加人数	登録身障者 専用駐車台数	氷蓄熱	太陽光 発電	EV 充電器
イオンモール太田	2003年 12月	62,000	4,200	54,000	2,140	2006年 7月	6	2,031	14			普通3
イオンモール高崎	2006年 10月	59,000	3,700	50,000	2,431	2007年11月	4	2,286		○		普通2
イオンモール水戸内原	2005年 11月	78,000	4,100	49,000	3,145	2006年 8月	4	1,789	14	○	○	普通3
イオンモールつくば	2013年 3月	64,000	4,000	15,000	2,939	2011年10月	6	699	15		○	急速1普通2
イオンモール下妻	1997年 11月	36,000	3,100	16,473	1,366	2006年 9月	2	160	14		○	
イオンモール土浦	2009年 5月	58,000	3,300	20,000	2,092	2009年 6月	2	613	20	○	○	
イオンモール小山	1997年 4月	30,000	1,900	19,493	1,022	2006年 7月	3	970			○	急速1普通1
イオンモール佐野新都市	2003年 4月	32,000	2,300	11,227	1,209	2006年 7月	4	3,083	12			
イオンモール川口	1984年 4月	34,000	1,300	250	1,018	2006年11月	5	74				
イオンモール川口前川	2000年 11月	66,000	2,400	20,000	3,216	2006年11月	4	281			○	
イオンモール春日部	2013年 3月	56,000	2,900	15,000	2,376	2006年 8月	6	476	17	○		普通3
イオンモール羽生	2007年 11月	75,000	5,000	90,000	3,080	2007年10月	7	1,285	21	○	○	
イオンレイクタウンKAZE	2008年 10月	61,000	2,300	20,000	3,629	2008年10月	5	—		○	○	
イオンレイクタウンmori	2008年 9月	99,000	6,100	50,000	6,388	2006年 8月	3	25,400	20		○	急速2普通1
イオンレイクタウンアウトレット	2011年 4月	23,000	1,100	1,000	824	2006年 8月	1	—	10		○	普通2
イオンモール北戸田	2004年 11月	44,000	2,600	12,627	2,408	2006年 7月	3	—				急速1普通1
イオンモール与野	2004年 12月	41,000	3,000	16,371	2,237	2006年 8月	3	187	12			急速1普通1
イオンモール浦和美園	2006年 4月	62,000	3,000	25,641	3,227	2006年 8月	4	—	16		○	急速1普通1
イオンモール高岡	2002年 9月	62,000	3,600	44,000	1,953	2007年12月	3	2,545				
イオンモールかほく	2008年 10月	62,000	3,300	29,391	1,628	2008年10月	2	283	12		○	
イオン御経塚ショッピングセンター	1998年 3月	33,000	1,700	—	870	2012年 3月	1	156				
イオンモール新発田	2005年 4月	33,000	1,700	14,210	1,060	2006年 7月	2	103	10			急速1普通2
イオンモール新潟南	2007年 10月	51,000	4,000	30,396	2,257	2008年 7月	4	936	14	○		急速1普通1
イオンモール佐久平	1999年 4月	25,000	2,000	19,247	939	2011年 9月	2	474				急速1普通1

南関東エリア

	開店年月	総賃貸面積 (約㎡)	駐車台数 (約台)	植樹本数	モール 従業員数	防災協定 締結年月	AED 設置台数	献血 参加人数	登録身障者 専用駐車台数	氷蓄熱	太陽光 発電	EV 充電器
イオンモールむさし村山	2006年 11月	78,000	4,000	45,000	4,077	2006年 9月	6	1,458		○		急速1普通2
イオンモール日の出	2007年 11月	64,000	3,600	58,000	2,587	2007年11月	4	2,881	16	○	○	
イオンモール東久留米	2013年 4月	31,000	1,700	20,000	2,703	2013年 4月	4	—	9	○	○	普通4
イオン板橋ショッピングセンター	2000年 5月	35,000	900		1,561	2007年 9月	1	389			○	急速1普通1
イオンモール大和	2001年 12月	35,000	1,900	20,000	1,887	2006年 4月	3	4,483				普通2
イオン相模原ショッピングセンター	1993年 8月	27,000	1,500	34,001	1,558	1992年 4月	2	—	17			急速1普通1
イオン秦野ショッピングセンター	1995年 11月	28,000	1,900	6,625	1,573	2006年 8月	2	2,071			○	
イオン海老名ショッピングセンター	1993年 11月	32,000	1,500		920	1994年 4月	1	114				
イオンモール富津	1993年 9月	28,000	1,400	32,000	948	2006年 8月	4	731				
イオンモール成田	2000年 3月	65,000	4,000	46,000	1,830	2006年 8月	6	5,175				
イオンモール千葉ニュータウン	2006年 4月	79,000	4,000	14,000	3,065	2007年 3月	6	2,616				急速1普通2
イオンモール津田沼	2003年 9月	27,000	1,300	1,549	2,124	2006年 7月	2	—	9			
イオンモール八千代緑が丘	2005年 3月	42,000	2,500	11,535	2,171	2006年 7月	3	357		○	○	

イオンモール データ集

南関東エリア （つづき）	開店年月	総賃貸面積 (約㎡)	駐車台数 (約台)	植樹本数	モール 従業員数	防災協定 締結年月	AED 設置台数	献血 参加人数	登録身障者 専用駐車台数	氷蓄熱	太陽光 発電	EV 充電器
イオンモール柏	2006年 5月	30,000	2,000	7,896	1,199	2006年 8月	2	162		○	○	
イオンモール銚子	2010年 3月	31,000	3,200	35,000	1,168	2010年 3月	2	1,001	11	○	○	普通2
イオンモール船橋	2013年 4月	36,000	2,300	17,346	2,222	2012年 3月	2	86	20	○	○	急速2普通1
ゆみーる鎌取 ショッピングセンター	2000年 3月	28,000	1,600	4,461	1,297	2007年 1月	3	—				
イオンマリンピア専門館	2003年 10月	11,000	300	—	157	2007年 1月	1	—				
イオンモール幕張新都心	2013年 12月	128,000	7,300	50,000	5,574	2007年 1月	18	—	43		○	急速4普通5
イオンモール甲府昭和	2011年 3月	45,000	2,500	20,000	1,765	2011年 2月	5	353	17	○		普通3

東海エリア	開店年月	総賃貸面積 (約㎡)	駐車台数 (約台)	植樹本数	モール 従業員数	防災協定 締結年月	AED 設置台数	献血 参加人数	登録身障者 専用駐車台数	氷蓄熱	太陽光 発電	EV 充電器
イオンモール浜松志都呂	2004年 8月	65,000	3,500	38,000	2,321	2011年12月	5	819	19		○	
イオンモール浜松市野	2005年 6月	63,000	4,000	19,299	2,675	2006年 9月	3	570	16		○	
イオンモール富士宮	2001年 12月	40,000	2,500	24,231	1,661	2006年 9月	2	1,006		○		
イオンモール大垣	2007年 4月	43,000	2,500	29,253	1,479	2007年 3月	2	303	10		○	
イオンモール各務原	2007年 7月	77,000	5,500	62,643	3,096	2007年 7月	2	592	20		○	
イオンモール新瑞橋	2010年 3月	38,000	1,600	5,000	1,889	2010年 2月	6	94	22	○	○	普通2
イオンモール東浦	2001年 7月	55,000	5,000	25,000	2,034	2006年 7月	7	1,034				普通3
イオンモール岡崎	2000年 9月	80,000	4,300	48,000	113	2007年 3月	10	1,683	20			普通3
イオンモール木曽川	2004年 6月	66,000	4,400	12,000	2,664	2006年 8月	3	3,378		○		
イオンモール名古屋みなと	1999年 11月	44,000	3,000	36,484	1,496	2006年10月	2	38				
イオンモール熱田	2003年 7月	47,000	3,800	12,331	2,649	2006年 7月	3	—				
イオンモール扶桑	2003年 8月	34,000	2,800	17,887	1,526	2006年 7月	1	321	31		○	
イオンモール ナゴヤドーム前	2006年 3月	48,000	2,800	12,736	3,260	2009年 5月	3	—	16			
イオンモール大高	2008年 3月	65,000	4,000	25,000	3,468	2008年 2月	2	38	12		○	
イオン春日井 ショッピングセンター	1991年 4月	33,000	1,600	—	1,055	2009年 7月	1	138				
イオンモール名古屋茶屋	2014年 6月	75,000	4,100	20,000	2,536	2012年 1月	3	—	8		○	急速2普通2
イオンモール鈴鹿	1996年 11月	70,000	4,200	36,000	2,013	2006年 8月	4	3,535				
イオンモール四日市北	2001年 1月	42,000	3,000	38,478	1,303	2008年 8月	1	1,096		○	○	
イオンモール明和	2001年 7月	34,000	3,100	39,467	1,081	2012年 3月	1	585	18		○	
イオン津 ショッピングセンター	1978年 9月	34,000	1,200	—	853	2006年12月	1	119				
イオン桑名 ショッピングセンター	2003年 8月	38,000	4,000	—	1,191	2004年 3月	2	—				
イオンモール東員	2013年 11月	58,000	3,500	15,000	1,589	2013年10月	3	268	8		○	急速2普通2

近畿エリア	開店年月	総賃貸面積 (約㎡)	駐車台数 (約台)	植樹本数	モール 従業員数	防災協定 締結年月	AED 設置台数	献血 参加人数	登録身障者 専用駐車台数	氷蓄熱	太陽光 発電	EV 充電器
イオンモール草津	2008年 11月	78,000	4,300	20,000	3,210	2008年10月	5	2,859	18	○	○	急速1
イオン近江八幡 ショッピングセンター	1991年 4月	35,000	3,000	—	1,024	1996年 3月	2	—		○		
イオンモール京都五条	2004年 3月	36,000	1,600	11,000	2,100	2010年 9月	4	584		○		
イオンモールKYOTO	2010年 6月	50,000	1,100	—	2,349	2011年 9月	2	528				
イオンモール久御山	1999年 6月	29,000	2,500	22,191	1,857	2011年 9月	2	299	10		○	急速1普通1
イオンモール高の原	2007年 5月	44,000	2,000	17,158	2,576	2011年9月京都 2011年3月奈良	1	40	15	○	○	急速1
イオン洛南 ショッピングセンター	1998年 7月	26,000	1,800	8,233	1,300	2011年 9月	2	214				
イオンモール橿原	2004年 4月	80,000	5,000	25,000	3,598	2010年11月	5	7,521		○	○	
イオンモール大和郡山	2010年 3月	67,000	4,200	20,000	2,417	2010年 3月	4	1,027	11	○		
イオンモール奈良登美ヶ丘	2006年 7月	31,000	1,300	15,118	1,348	2007年 6月	2	120	3			
イオンモール寝屋川	1978年 3月	24,000	700	3,200	839	2010年 6月	3	—				
イオンモール堺北花田	2004年 10月	72,000	2,800	13,000	3,256	2006年 9月	5	952	6	○	○	
イオンモール鶴見緑地	2006年 11月	53,000	2,200	12,000	2,357	2010年 6月	5	714		○		急速1
イオンモールドりんくう泉南	2004年 11月	76,000	4,300	66,000	3,183	2006年 9月	5	1,649		○	○	急速1
イオンモール日根野	2005年 4月	29,000	2,400	32,781	1,205	2011年 4月	2	441				急速1普通1
イオンモール大日	2006年 9月	56,000	2,464	15,416	2,297	2008年 8月	1	763	16		○	急速1
イオンモール 大阪ドームシティ	2013年 5月	34,000	700	4,200	1,893	2010年 6月	5	—	16		○	普通4
イオン茨木 ショッピングセンター	2001年 1月	46,000	2,000	—	2,108	2008年 9月	2	214		○		急速1普通1
イオンモール伊丹	2002年 10月	57,000	2,800	30,000	3,995	2012年 2月	4	1,305		○	○	

近畿エリア （つづき）	開店年月	総賃貸面積 (約㎡)	駐車台数 (約台)	植樹本数	モール 従業員数	防災協定 締結年月	AED 設置台数	献血 参加人数	登録身障者 専用駐車台数	氷蓄熱	太陽光 発電	EV 充電器
イオンモール伊丹昆陽	2011年 3月	48,000	2,400	10,300	2,422	2012年 2月	6	44		○		普通4
イオンモール神戸北	2006年 11月	55,000	4,000	56,000	2,612	2006年10月	7	895				
イオンモール姫路 リバーシティー	1993年 11月	36,000	2,600	11,817	1,477	2013年 3月	2	287				
イオンモール姫路大津	2004年 12月	34,000	2,600	16,151	1,773	2012年 2月	2	361		○	○	急速1普通1
イオンモール猪名川	1998年 4月	29,000	2,000	38,818	1,282	2012年 2月	2	51	9			
イオンモール加西北条	2008年 11月	33,000	2,100	11,864	1,035	2012年 2月	4	459	14	○	○	
イオン明石 ショッピングセンター	1997年 10月	58,000	3,500	—	1,034	2012年 2月	2	441		○		
イオンモール和歌山	2014年 3月	69,000	3,500	15,000	2,027	2014年 3月	4	—	17		○	急速4普通2

西日本エリア	開店年月	総賃貸面積 (約㎡)	駐車台数 (約台)	植樹本数	モール 従業員数	防災協定 締結年月	AED 設置台数	献血 参加人数	登録身障者 専用駐車台数	氷蓄熱	太陽光 発電	EV 充電器
イオンモール倉敷	1999年 9月	83,000	4,700	70,000	3,880	2006年 8月	7	13,647	10		○	急速4
イオンモール津山	1996年 12月	30,000	2,000	18,668	999	1998年 3月	2	445	10			
イオンモール広島府中	2004年 3月	80,000	4,300	64,000	3,625	2007年 4月	4	2,639		○		
イオンモール広島祇園	2009年 4月	50,000	2,800	20,000	1,988	2009年 9月	5	883	12	○	○	
広島段原 ショッピングセンター	2011年 9月	24,000	800	—	614	2012年10月	1	—				
イオンモール日吉津	1999年 3月	47,000	2,900	25,486	1,455	2006年 8月	2	7,105	11	○	○	急速1普通1
イオンモール鳥取北	2000年 4月	48,000	3,100	—	1,328	2007年 3月	2	662	10			急速1普通1
イオン松江 ショッピングセンター	1994年 5月	32,000	1,800	—	1,129	1997年10月	2	304	20	○		
イオンモール高知	2000年 12月	57,000	3,100	23,000	2,465	2007年 9月	6	3,310			○	
イオンモール新居浜	2001年 6月	67,000	3,400	35,000	1,617	2006年 8月	3	1,552			○	
イオンモール高松	2007年 4月	47,000	3,000	12,500	1,301	2007年 6月	2	63	16		○	
イオンモール綾川	2008年 7月	57,000	4,000	49,044	1,521	2008年 6月	3	1,316	16		○	
イオンモール八幡東	2006年 11月	41,000	2,200	19,242	1,970	2012年 4月	2	145	10		○	
イオンモール直方	2005年 4月	58,000	3,400	39,000	2,016	2006年 8月	4	1,580	14			
イオンモール福岡	2004年 6月	90,000	5,200	30,000	2,598	2012年 4月	6	1,479		○		
イオンモール福津	2012年 4月	61,000	3,500	27,000	2,680	2012年 3月	3	923	25		○	普通2
イオンモール筑紫野	2008年 12月	69,000	3,600	20,000	2,423	2009年 4月	6	3,326	17		○	
イオンモール大牟田	2011年 3月	57,000	4,800	20,000	1,424	2011年 9月	3	1,108	16			普通1
イオンモール三光	1996年 12月	40,000	2,500	36,000	774	2006年 2月	3	959				
大津ショッピングプラザ	1987年 10月	8,500	600	—	208	2013年 7月	2	—				
イオンモール熊本	2005年 10月	73,000	4,500	27,000	3,008	2006年10月	3	1,649		○		
イオンモール宇城	1997年 11月	63,000	3,300	50,000	999	2007年11月	2	371		○		
イオンモール宮崎	2005年 5月	70,000	4,000	56,000	2,679	2006年 9月	6	3,099			○	普通1
イオンモール都城駅前	2008年 12月	28,000	1,700	8,000	987	2008年11月	3	621			○	

PM	開店年月	総賃貸面積 (約㎡)	駐車台数 (約台)	植樹本数	モール 従業員数	防災協定 締結年月	AED 設置台数	献血 参加人数	登録身障者 専用駐車台数	氷蓄熱	太陽光 発電	EV 充電器
ショッピングセンター ソヨカ ふじみ野	2012年 6月	9,400	400	—	576	—	2	—				
mozo wondercity	2009年 4月	101,000	5,000	20,000	4,215	—	3	433	14	○		
ならファミリー	1972年 3月	86,000	2,000	300	1,990	—	2	204				
神戸ハーバーランドumie	2013年 4月	85,000	3,000	—	2,795	—	3	—				急速1

その他	開店年月	総賃貸面積 (約㎡)	駐車台数 (約台)	植樹本数	モール 従業員数	防災協定 締結年月	AED 設置台数	献血 参加人数	登録身障者 専用駐車台数	氷蓄熱	太陽光 発電	EV 充電器
ショッピングモールフェスタ	1996年 4月	32,000	3,800	26,000	1,050	2006年 5月	3	—				

海外	開店年月	総賃貸面積 (約㎡)	駐車台数 (約台)	植樹本数	モール 従業員数	防災協定 締結年月	AED 設置台数	献血 参加人数	登録身障者 専用駐車台数	氷蓄熱	太陽光 発電	EV 充電器
イオンモール北京国際商城	2008年 11月	53,000	3,000	8,000	900	—	—	—	6		○	
イオンモール天津TEDA	2010年 10月	55,000	2,500	8,000	800	—	—	—			○	
イオンモール天津中北	2012年 4月	62,000	3,700	10,000	1,150	—	—	—	10		○	
イオンモール天津梅江	2014年 1月	62,000	3,700	10,000	1,208	—	—	—				
イオンモール蘇州吳中	2014年 4月	75,000	3,100	6,000	1,400	—	—	—			○	
イオンモール タンファーセラドン	2014年 1月	50,000	バイク 4,000 車 500	8,000	2,500	—	—	—				
イオンモールプノンペン	2014年 6月	68,000	1,400	10,000	3,216	—	2	—				